

笑ってごらん

第 528 号 H. 27. 10. 21 発行

～今日のことば～

小才は縁に逢って縁に気付かず、中才は縁に逢って縁を活かさず、大才は袖触れ合う他生の縁もこれを活かす。(江戸期武将：柳生宗矩)



◇◆前号の問題の答えから。問題は「ここにバケツが 2 つある。それぞれ 3 リットルと 5 リットルの水がピッタリ入る。その 2 つのバケツを使ってちょうど 1 リットルにしろ。水はいくら使っても構わない。ただし、2 つのバケツ以外の道具は使えないものとする」だったね。頭を悩ませた人もいることだろう。脳科学者の茂木健一郎氏によれば、「考える」という作業は脳を活性化させる素晴らしいことなんだそうだ。極論を言えば、答えにたどり着かなくても、じっくり考える作業自体が活性化に効果的だという。高校は先週中間考査だったが、何でも一問一答形式で丸暗記しようとする人がいる。それでは脳は活性化されない。「わかっていること(条件)」を組み合わせて「わかっていないこと(結論)」を導く、それが「考える」ということ。どんどん考えて脳を活性化させよう。で、正解は、「まず 5 リットルバケツに、3 リットルバケツいっぱいの水を入れる。そこへさらにもう 1 回、3 リットルバケツいっぱいの水をゆっくり注ぎ込む。先に 3 リットルの水が入っているので、今度は 2 リットルしか入らない。つまり 3 リットルバケツに 1 リットルの水が残ることになる」。 ◆さて、今回は【あるなしクイズ】といきましょう。次に示す〈ある〉グループに共通している事を答えなさい。 〈ある〉赤・右・虹・川・走る 〈ない〉青・左・雲・海・歩く
 ~~~~~

## 感謝道

◇◆前号に続き「新老人の会鹿児島支部フォーラム 2015」の内容から。メインとなる日野原重明先生 104 歳講演以外にも様々な発表があったことは少し紹介した。その中で私が感動したのは小学 6 年生 K さんの『お守り』という平和スピーチ。以下概略を紹介する。「K さんは 6 年生になる直前の 3 月末、お母さんが制服の上着とブラウスにネームを縫い付けようとしていた。家庭科で裁縫を習った K さんは手伝いを申し出たが、「これはお母さんの仕事だからダメ」と断られた。仕方なく側で見ていると、お母さんがネームの裏にハート形の布を縫い付けている。尋ねると、「これはあなたがケガや病気にならないようにするためのお守り」との答え。しかも、入学以来毎年行って来たという。制服を汚して帰ったことのある K さんは悲しくなった。この知覧は、未来ある若者が特攻隊員として国のために出撃し帰ることの無かった、悲しい歴史のある地。K さんが知覧特攻平和会館を訪れた際、多くの遺書などと共にあった、鹿児島市の永田少尉のお守り。それは恐らく永田少尉のお母さんが息子の無事を祈って作って持たせたものであろう。お守りというものは肌身離さず持っているべきものであり、なぜお守りだけがここにあるのか、そして、遺品となったお守りがなぜ遺族のところではなくここにあるのか、K さんは不思議に思った。どうしてそうなったのか。今年が戦後 70 年。これから先もずっと、大切なお守りを手放すことのない平和な時代であるべきことを願っている」という内容。いろいろな立場で考えさせられる素晴らしいスピーチだった。 ◆お守りに関連しての話題。17 日のオープンスクールにおいて総合福祉科の様子を見に行った際、ハロウィン仕様の飛び出すグリーティングカード作りに参加した。カボチャ型のカードを開くとコウモリが飛び出す仕組み。細かい作業をするというのに、それをデカイ手と老眼が阻む。苦心惨憺の末、何とか出来た。南田教頭先生に作品を見せた際、「新潟には『幸守り(こうもり)』という和服の生地で作られたコウモリ型のお守りがあるとのこと。ネット検索してみたものが右の写真。教頭先生曰く、コウモリは木の枝とかに逆さにぶら下がっていることから、「絶対に落ちない！」という意味合いで受験のお守りとされているとか。

